



星槎スポーツ新聞

第28号★2018年11月13日(火)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

第3回夏季ユースオリンピック2018 金メダル獲得! ヨーロッパカデサーキット 銅メダル獲得!



小久保真旺

第3回 夏季ユースオリンピック2018・ブエノスアイレス大会(III Summer Youth Olympic Games / Buenos Aires 10月6日〜18日)にて、川口キャンパス2年生の上野優佳がフェンシング女子フルール個人にて金メダルを獲得。また、同大会の混合団体戦では銀メダルを獲得し快挙を成し

フェンシング

名のアスリートが集結した。フェンシング競技は実施日程が早かったため、日本勢にとっては大大会初の金メダルの獲得となり、その後の競技に良い影響を与えた形となった。

一方、川口キャンパス1年生の小久保真旺はハンガリーにて行われたEuropean Cadet Circuitでフェンシング男子サーブル個人で銅メダルを獲得。この大会は、世界から17歳以下の強豪が100名以上集まる大会である。1年生では、過日マカオで行われた大会(Asian Youth Fencing Competition)で優勝した竹井輝一に続く快挙となる。国外の大会で初めてメダルをとり、自信をつけたという小久保真旺にインタビューをした。

達げた。今年、4月にイタリアヴェローナで行われた2018世界ジュニア、カデ選手権大会と合わせて3冠を達成、2020年東京オリンピックに期待がかかる。

今回行われたユースオリンピックは4年に1度の、14歳から18歳までのアスリートが出場する大会で日本からは91名の選手が出場、全世界からは約3600

いつからフェンシングをはじめたか?

▼6歳の頃から始めました。

フェンシングをはじめたきっかけは?

▼親の知人に誘われ、体験したら楽しかったので始めました。

サーブル(種目)の魅力は?

▼スピード感と力強さ、斬る動作が魅力です。日々、気をつけていることは?

▼日常生活では態度を悪くしない、練習や試合では怒らないことを意識しています。

学校とフェンシングの両立について

▼学校では特に英会話の授業に力を入れています。フェンシングでは自分のダメなところを改善できるように、毎日練習に励んでいます。

今回の結果についての感想は?

▼海外の試合経験が少なく不安でしたが、自分の思った通りの動きができ、冷静に試合ができたので良かったです。個人で初のメダルなので自信もつきました。

今後の目標は?

▼今年の目標は、世界カデ選手権で優勝すること。最終目標はオリンピックで金メダルです。

小久保真旺は、普段より人一倍練習をしており決して妥協することがない生徒である。

学業面においても一生懸命取り組む生徒であり、今回の大会前に行った「前期試験」でも好成績をおさめるなど、文武両道である。今後の活躍を応援したい。

(星槎川口キャンパス 教諭 松本拓也)

女子サッカー

選手権関東大会予選に向けて



いざ全国大会へ!!

星槎国際湘南女子サッカー専攻は第27回 神奈川県高等学校女子サッカー選手権(以下、県予選)に優勝し、第27回 関東高等学校女子サッカー選手権(以下、関東大会)の出場権を獲得した。県予選では、今年から競技方法が変わりトーナメント戦ではなく、リーグ戦方式で県の代表を決める流れとなった。上位2チームが関東大会出場権を掴み取ることができ、リーグ戦は3戦全勝し上位に上るにはいけないシビアな戦いとなった。

初戦は湘南学院高等学校と対戦した。初戦の緊張感もあり一進一退の攻防が繰り広げられたが、チャンスを決めきり3-1で勝利をした。2戦目

は落ち着いて試合に臨むことができ、横浜翠陵高等学校に2-0で勝利した。最終戦はインターハイ予選で苦戦した、神奈川県立藤沢清流高等学校だった。藤沢清流高等学校も関東大会出場に向けてチーム一丸となり全力を尽くしてきた。拮抗した試合展開でなかなか相手のゴールを割ることができなかった。前半は0-0のまま終了し後半に臨んだ。

後半は少し、星槎ペー」となり攻撃をするも固く守られた守備陣形が崩せずゴールを流れの中で決めきれなかった。どうしても得点が欲しい状況でチャンスが訪れた。しかし、それは、星槎があまり得意としないコーナーキックのチャンスであった。ゴールを決めたい一心で星槎イレブンがコーナーキックに臨むと、ヘディングで相手ゴールのネットを突き刺し得点を奪いなんと1-0で勝利をした。以上の結果より2年連続の優勝と神奈川県第1代表として関東大会に出場することになった。

関東大会は、16チーム中、上位7チームが第27回 全国高等学校女子サッカー選手権大会(以下、全国大会)に出場ができる。今年の開催は埼玉県で行われ11月10日(土)に開催する。星槎国際湘南女子サッカー専攻の1回戦目の相手は、地元の埼玉県第2代表、埼玉県立南校高等学校だ。南校高等学校は藤沢清流高等学校と同様にチーム一丸となって臨んでくることが予想される。この相手の情熱をいかに技術と判断と経験とチームワークで打開するかが、1回戦勝利の決め手になると考える。

とにかく初戦を勝たないことには、全国大会への道が無くなってしまふ。県予選が終わってから3年生は進路のことを進めながら日々練習に励んでいる。精神的にも少し難しい時期であるが、現在4年連続で手にしている全国大会の切符を今年も掴み取るように、さらにチーム一丸となって戦っていききたい。

最後になりますが、いつもたくさんの応援ありがとうございます。全国から少しずつ注目もされ、星槎のサッカーの対策をされる中で、しっかりと勝ちきれようという関東大会を頑張りますので、ご声援の程お願い申し上げます。(星槎国際湘南 渡邊晃平)

女子バレー

目指せベスト4!!

春高バレー 県予選に向けて



全日本バレーボール高等学校選手権大会 神奈川県予選大会が11月3日(土)・4日(日)・11日(日)に行われる。昨年度はベスト4の大金星の結果を残した大会である。

昨年からチームの主力として戦った市倉みなみ、宮田香澄、小島梨奈、天野愛美の4人が今年のチームに残っている。前回大会の経験のある選手がレギュラーの半分以上いるのはチームにとって非常に大きい。チームを回すセッター小島梨奈が残っている事で、昨年からトスを上げて経験を活かしてチームを勝利に導いてくれるだろう。また、3人のスパイカー市倉、宮田、天野がチームを盛り上げ、チームの持ち味であるコ

ンビバレーの鍵となることは間違いない。昨年のメンバーの穴を埋めるのが馬場晴海、玉城優羽、田中彩夏である。センタープレイヤーの2人、馬場と田中が速攻であるクイックに入ることで、相手のブロックを翻弄する重要な役割となる。持ち味である決定率の高い速攻としつこいブロックに注目してもらいたい。レシーブの要となるリベロの玉城は昨年から2枚目のリベロとして数多くのボールを拾ってきた。昨までは、先輩の背中を追いつけてきたが今年はチームを支える土台となる。強い気持ちとあきらめないガッツあるプレーでチームを鼓舞してくれる。

このチームは関東私学大会、高校総体予選と今年の大会で結果が残せていない。結果が残せていない焦りと不安もあるが、日々それを超越した練習をこなしている。今までやってきた練習に自信を持ち試合に挑んでもらいたい。練習は嘘をつかない。それを証明できるような本番での活躍を期待している。

捲土重来(けんどうちようらい)という言葉があるが、一度敗れたり失敗したりして巻き返すという意味である。羽田野監督が生徒に語ってくれた言葉であり、今のバレーボール部と同じであるとおっしゃられていた。巻き起こった土煙のように再び勢いを増して相手に攻めかかれるよう強い気持ちを持たず、胸に刻み、負けを次の勝ちに変えられる戦いに注目してほしい。(バレーボール部コーチ 佐々木徹)



力石隆太郎

陸上競技専攻 実りの秋!! 飛躍の秋!!

星槎国際湘南 陸上競技専攻は夏の苦しい時期から飛躍の秋へと移った。9月には新人戦が行われた。地区予選で、栗田伊吹は2種目で二次ラウンドに進出、県大会には出場できなかったが成長を見せてくれた。吉村快は高校総体では800mだけ県大会出場だったが、今回1500mでも県大会に出場。上位で進むことができ、頼もしい走りをしてくれた。そしてこの大会で一番

力強い走りを見せたのが力石隆太郎。前半は彼らしい走りができず、なかなか思うような結果が出なかったが、こ一番で結果を残した。前半から冷静に走り、上位でレースを進める。課題としていた中盤で前に出るなど、終始攻めの走りをして、自己ベストを約30秒更新する走り、県大会出場を決めた。スタッフの心を動かすような走りは彼の成長を大きく感じさせた。県大会でも地区予選の勢いに期待したが、力石は雲霧にのまれてしまい、いいところなく終えてしまった。吉村は1500mではレース展開が悪く、予選敗退したが専門種目800mで挽回を狙う。800mではしっかりと予選を走り、最低目標の準決勝進出を果たす。準決勝はいい流れでレースを

するが、途中耐えるのではなく、攻めの走りを選択。しかしそれが裏目に出て流れを崩してしまいタイムも悪い結果となった。各記録会では、留学生が活躍。ベンジヨは800mに引き続き、400mでもブータン新記録を出すなど、狙っていたわけではなく、気持ちの入ったレースで記録を作る。本人もまさかと驚いた様子であった。デジエンは長らく脚の故障で戦列を離れていたが、この秋に復帰。1500mは練習の一環で出場、5000mも順調な流れで走り、復調をアピール。彼の力はこんなものではないので、今後が楽しみである。アヌールも両種目で自己ベストを更新し、夏の成果が出た。11月には駅伝がある。まだまだ戦いは続く。(星槎国際湘南 門馬健太)

未来に向けて
スポーツを超え

平成30年9月12日から9月20日まで、第2回ISPS Handa Cupアーチェリー大会及び全日本強化選手との強化合宿に、星槎国際湘南のアーチェリー専攻のソナム・チョデンとニダップ・ドルジが参加した。また、本大会、強化合宿は全日本アーチェリー連盟と星槎グループ、世界こども財団が協働し、星槎グループは、ブータンからの選手4名、コーチ2名、及びミャンマーからの選手2名、コーチ1名の合計9名を招聘した。強化合宿では、9月12日から愛知産業大学及び

附属三河高等学校と合同練習を行った。9月15日(土)、16日(日)に愛知県岡崎市で開催された第2回ISPS(アイエスピーエス)Handa Cupアーチェリー大会に出場した。大会では、ブータン、ミャンマーの選手たちも健闘したが、それ以上に2年後に迫った東京オリンピックに向けて前月のアジア大会で好成績を挙げた日本選手の勢いが勝っていたように感じられた。大会2日目のエキジビションマッチ(男女混合リカーブ)に留学生の二

タップが、アジア大会の同種目で金メダルを取った杉本智美選手とペアを組み3位に入った。金メ



第2回 ISPS Handa Cup
アーチェリー大会に出場

強化合宿を通して、国を越えて結束が芽生えました

ダリストとペアを組めたことが今後大きな成長につながっていくことだろう。ソナムは、アジア大会

に出場し、Emmanuel男子団体で優勝した、ナショナルチームAの武藤弘樹選手と組んだが、残念ながら準々決勝で敗退した。大会後も引き続き、全日本強化選手たちと合同合宿でお互いの技術を高めることができた。留学生たちは、一週間以上アーチェリーに集中して取り組むことができ、今後の

大会出場に期待が膨んだ。ブータンの選手たちは昨年度に引き続いての参加だったが、ミャンマーの選手たちは初めての参加で終始緊張していたが、帰国の際は満面の笑みを浮かべて帰っていった。また来年、さらに東京オリンピックで再会することを願っている。(太田啓孝)

主要大会 結果 (代表的なレースのみ記載)

【神奈川県高校新人大会 西地区予選】

- ◆100m 栗田 伊吹 予選11秒66 準決勝11秒77
- ◆200m 栗田 伊吹 予選23秒93 準決勝23秒92
- ◆800m 長野 真樹 予選2分08秒32(自己ベスト)
吉村 快 予選2分06秒71 準決勝2分01秒04
- ◆1500m 力石 隆太郎 準決勝4分18秒06(自己ベスト)
吉村 快 4分09秒44(県大会出場、自己ベスト)
長野 真樹 4分23秒52(予選は4分19秒57 自己ベスト)
- ◆5000m 力石 隆太郎 予選15分53秒29(県大会出場、自己ベスト)
瀬戸 大二郎 予選16分07秒00(自己ベスト)
園田 幸之介 予選16分51秒89(自己ベスト)

【神奈川県高校新人大会】

- ◆800m 吉村 快 予選1分59秒35 準決勝2分01秒86
- ◆1500m 吉村 快 予選4分10秒42
- ◆5000m 力石 隆太郎 予選16分30秒56

【秦野市記録会】

- ◆400m ツェリング ペンジヨ 52秒76(ブータン新記録、自己ベスト)
栗田 伊吹 56秒53
- ◆1500m デジエン テスファレム ウェルドウ 4分00秒36
アヌール モハメド アタ 4分01秒61(自己ベスト)
吉村 快 4分09秒31(自己ベスト)
長野 真樹 4分20秒18
力石 隆太郎 4分21秒23
瀬戸 大二郎 4分26秒77(自己ベスト)
園田 幸之介 4分30秒53

【東海大学記録会】

- ◆5000m デジエン テスファレム ウェルドウ 14分29秒59
アヌール モハメド アタ 14分55秒68(自己ベスト)

夏の一次予選から始まった第97回 全国高校サッカー選手権神奈川予選は全国でも注目度の高い激戦区。星槎国際湘南イレブンはこの激戦区神奈川を突破し全国大会出場を目指した。

対戦相手となってくる相手は全国的にも実力のある強豪校ぞろい。夏の全国高校総体であと一步のところで優勝に手に届かず準優勝した桐光学園高等学校。さらに、全国高校総体ベスト8の三浦学苑高等学校やプロ内定者を決めている東海大学付属相模高等学校。また、前年度優勝校の桐蔭学園高等学校や昨年度全国でも実績を残した日本大学藤沢高等学校など多くのライバル校が神奈川でひしめき合っている。星槎国際湘南は抽選の結果、9月24日(日)に近年着実に力をつけてきた川崎市立橋高等学校との対戦となった。



試合に挑む星槎国際イレブン

星槎国際湘南は、守備陣のDF 柏木心太と、大抜擢されたDF 下山柊人を中心に相手に思いうようなプレーをさせなかった。攻撃陣もこれに奮起してチャンスを作る。前半20分、右サイドを攻め込んだDF 沢田俊一郎がサイドを上げると、走りこんできたFW 藤浦涼丞が合わせるも僅かに枠をとらえることができなかった。相手に主導権を握らせることなく星槎のペースで試合を運んだ。

しかし、前半36分、相手た星槎国際湘南は、守備陣のDF 柏木心太と、大抜擢されたDF 下山柊人を中心に相手に思いうようなプレーをさせなかった。攻撃陣もこれに奮起してチャンスを作る。前半20分、右サイドを攻め込んだDF 沢田俊一郎がサイドを上げると、走りこんできたFW 藤浦涼丞が合わせるも僅かに枠をとらえることができなかった。相手に主導権を握らせることなく星槎のペースで試合を運んだ。

最後の選手権大会を終えて目標であった全国大会という舞台には立つことができなかったが、煌々と目を輝かせ果敢に相手に立ち向かった選手、また、声がつぶれたくらいまで応援し続けた選手たちを讃えたい。彼らは星槎国際湘南の誇りである。

夏は抽選の結果、9月24日(日)に近年着実に力をつけてきた川崎市立橋高等学校との対戦となった。

星槎国際湘南は、守備陣のDF 柏木心太と、大抜擢されたDF 下山柊人を中心に相手に思いうようなプレーをさせなかった。攻撃陣もこれに奮起してチャンスを作る。前半20分、右サイドを攻め込んだDF 沢田俊一郎がサイドを上げると、走りこんできたFW 藤浦涼丞が合わせるも僅かに枠をとらえることができなかった。相手に主導権を握らせることなく星槎のペースで試合を運んだ。

最後の選手権大会を終えて目標であった全国大会という舞台には立つことができなかったが、煌々と目を輝かせ果敢に相手に立ち向かった選手、また、声がつぶれたくらいまで応援し続けた選手たちを讃えたい。彼らは星槎国際湘南の誇りである。

男子サッカー 神奈川での激戦区

第17回

宮澤杯野球大会
オーブン大会

10月18日(木)に第17回宮澤杯野球大会が開催された。2度の悪天候による中止を経て、ようやく開催にこぎつけた。本来であれば、予選大会・決勝大会と続き、毎年星槎の野球最強校舎を決定するのだが、今大会はオーブン大会として野球を通して校舎間交流を目的として行なった。

2度の順延を経て、全国から野球を愛する校舎が多く参加した。交流を目的としたオーブン大会ではあるが、これまでの練習の成果や野球に對

宮澤杯野球大会 結果

◆柏高等技術学園	2勝
◆星槎国際厚木	1勝1敗
◆星槎国際横浜鴨居	1勝1敗
◆星槎国際立川	2敗

◆星槎国際広島	2勝
◆星槎学園湘南校	1勝1敗
◆星槎学園横浜ポートサイド校	1勝1敗
◆星槎学園北斗校	2敗

◆星槎国際八王子	2勝
◆星槎中学高等学校	1勝1敗
◆星槎国際大阪	1勝1敗
◆星槎名古屋中学校	2敗

後でもグラウンドに集まり野球を楽しんでいた。今回は、残念ながら決勝大会を「宮澤スタジアム」で開催することができなかったが、宮澤スタジアムで野球イベントも計画しているので、星槎の野球を愛する皆さん、楽しみにしててください。(宮澤杯実行委員 渡部拓)



ヒットを打ってガッツポーズ

オピニオン

星槎国際名古屋副センター長

小野 暖未

これまでの私の運動経歴において、幸いにも大きな怪我に悩まされることは少なかった。しかし、骨に悩まされたことがある。それはオスグッド病だ。

この怪我により、練習から遠ざかる期間があり、皆に置いていかれるような気がして、悔しく、辛い思いをし、痛みを我慢して練習をした記憶がある。また、私の周りにはスポーツで負った怪我により、競技生活を諦めざるを得ない人がいた。このことから、私は怪我とスポーツを続けること

について考えるようになった。

今回は骨と骨に関する怪我「疲労骨折」についてとりあげ、そこから生涯スポーツに関わっていくことに対する、私なりの意見を述べてみたい。

突然だが、皆さんが身体を動かす時やトレーニングをする時に意識するのはなんだろうか。ほとんどの人は筋肉を意識することが多いのではないだろうか。確かに、トレーニングの原則としても「意識性」があり、動かしている筋肉を意識することにより効果が得られる。

しかし、その筋肉だけで身体を動かしているわけではなく、筋肉や関節と一緒に動いて骨が根子として働き、さまざまな動きを可能としている。当たり前前のことだが、骨が

疲労骨折

なければ巧な身体の動きはない。

私たちの身体は約200の骨からなっており、骨は人間の身体を支え、内臓を保護する働きをしている。骨は海綿質と緻密質からなっている。緻密質は骨の表面を作り、ハバース系またはオステオン(骨単位)と呼ばれる円柱状の構造が規則正しく並んでいる。これらの縦方向に連なっているため、骨は曲がりに強い。骨の内部の海綿質は、網目状で、簡単に言えばスポンジ状になっている。そのため、軽量化され、成人であっても骨の重量は約9kg、体重のおよそ7分の1である。

骨は、筋肉と同様に中学生から高校生の時に大きく発達するが、骨が太くなることはほとんどない

と言われている。つまり、骨の成長とは長くなることである。また、骨が強いあるいは強くなるというわけである。また、骨が強いあるいは強くなるというわけである。また、骨が強いあるいは強くなるというわけである。

骨密度が高くなる要因として、運動をすること、骨に負荷がかかること、カルシウムが骨に定着することが促進されること、などが挙げられている。ただし、運動によって骨は強くなる一方で、負荷が多すぎることでもよくもなる。それが「疲労骨折」だ。

「疲労骨折」は一回の強大な外力によって発生するのではなく、骨の同じ場所に繰り返し加わる負荷により起こる骨折である。疲労骨折が起こりやすい種目もあるようだ

が、どの種目であっても共通しているのは走る動作が多いことである。また、走りやすい骨は脛骨、つまりすねの骨である。足の裏を通して、地面からくる衝撃を脛骨が受け止めており、度重なる不可により症状が発生する。スポーツをしていく上で、走ることは必要不可欠だ。走ることがない種目であっても、持久力をつけるためのトレーニングとして行っているため、誰もが起こりうるスポーツ障害といえるだろう。

しかし、治療に特効薬があるわけではない。休養とバランスの取れた食事をするのが一番の方法となっている。

小学校5年生の時、仲の良い友人に誘われてバレーボールを始めた。他の習い事との重複や、元々そこまで運動が上手ではなかったこともあり、あまり乗り気ではなかったが、見学を重ねてやってみようと思った。正直、日々の練習は辛かったが、その練習の日々があったからこそ感動できる勝利があったし、今でも信頼できる仲間がたくさんいる。バレーボールはチームで一つのボールを追いかけるスポーツ。ポジションごとに役割が固定されているので、それぞれの仕事をやり遂げることで点数を稼ぎ取れる喜びは、信頼が無ければできないと思う。

星槎
教師
列伝

辛い練習を乗り越えたからこそ感動できる勝利がある
星槎中学高等学校 教諭 高祖美生

宮澤ひなたさん、
なでしこジャパンの
メンバーに選出

星槎国際湘南女子サッカー部の卒業生、宮澤ひなたさんがなでしこジャパンのメンバーに選出されました。国際親善試合は2018年11月11日(日)14:00キックオフです。なでしこジャパンはノルウェー女子代表と鳥取市営サッカー場バードスタジアムで戦います。

なお、11月6日(火)からの合宿へ参加予定です。

Japan Innovation
Challenge 2018
—ロボットによる
山岳救助コンテスト—

平成30年10月10日(火)～12日(金)、北海道の上士幌町で行われたJapan Innovation Challenge 2018 —ロボットによる山岳救助コンテスト—において、星槎国際八王子のドローンゼミの生徒4名と、エアロエ

ムズ株式会社で結成した「星槎国際八王子」が、高校生初参加のこのコンテストで、要救助者を「発見」するミッションに挑み、見事課題を達成しました。一般企業や大学の研究チームが名を連ねる中での大健闘です。

福田俊 ドラフト会議で
日本ハムから指名

昨年秋の明治神宮大会で星槎道都大学を北海道勢初の準優勝に導いた福田俊が日本ハムから7位指名された。詳細は次号で。

「幸せの国」ブータン初参加
パラ普及目指す

ジャカルタ・アジアパラ大会に、国を挙げて障害者スポーツの普及を目指す「幸せの国」ブータンが初めて参加した。昨年、国内組織ができたばかりだが、今大会にはアーチェリーと射撃に男女計2選手が出場。2年後の東京パラリンピック出場を目指している。

中学校時代、高校時代とバレーボール部に所属しバレーボールを続けていたが、高校時代は公式試合にでることができなかった。どんなに練習をしても周りは上手な人ばかりで、練習は悔しく、嫌しかったが、その分学べたものは大きかったと今では思う。自己満足でも努力を続けることの大切さを学び、小さな成長に自分自身で喜べるようになった。

もっとも印象に残っている試合は、高校2年生の時に春高バレー北海道予選で優勝したこと。その時、ユニフォームをもらうことができなかったが、応援席から降りてきた私にチームメイトが金メダルをかけてくれたことがある。

また、高校2年生の夏以降、選手からマネージャーへの転向を監督から打診された。初めは落ち込んだが、それが私の人生に大きく影響している。かなり厳しく指導していたので、気遣いが大切だということを実感することができた。それから、周りは「できる人」ばかりだったので、できないことを恥ずかしいとふさぎ込むのではなく、自分ができないことを認め周囲の人に助けを求め、できるようにすることを学んだ。

今ではマネージャーに転向できたことをありがたかったと思っている。そんな転機をくださった高校時代の監督には頭が上がない。監督の教えはたくさんあったが、単純に「すごいな」と思うのは、今でも母校の近況報告や年賀状などのやり取りがあること。数多くいる生徒の中の一人である私にもそういった気遣いができる監督の下で学べたからこそ、人との繋がりの大切さを知ることができた。

セイスポ

祝
国体3位!
チームライフル射撃競技

みごと3位に輝いた喜納

ライフル射撃競技の星槎国際沖縄の喜納夕莉が、10月5日(金)に行われた「第73回 福井しあわせ元気国体 少年女子チームライフル立射40発競技」に出場し、見事3位に輝いた。

昨年度の九州大会優勝、今年度の西日本大会優勝など数々のライフル射撃競技の大会で実績を積み、今回集大成として高校最後の大会に臨んだ。これまで出場した大会を振り返り、自分自身の課題に向き合い、コーチや競技仲間とともに練習を積み重ね、素晴らしい結果につながった。

「前日に20発競技にも出場したが、これまで結果が残せなかった大会のときのように緊張して空回りし11位という結果だった。40発競技では自分の射撃を心がけようと考えたら吹っ切れた」という。チームライフル競技40発競技予選では419.5点の自己ベストを出し、8人で争うファイナルへ進出。ファイナルでは序盤は得点が伸びずに下位だったが、驚異的な粘りをみせ、3位に入った。

これまでの大会では優勝の経験はあったものの、緊張で目まぐるしい力が発揮できなかった大会もあり、精神面で課題があった。数々の大会での経験、また高校3年生になってからは週6日に練習日を増やし、その中で点数意識(点数を狙いすぎて体が緊張し、実力が出せないこと)の操り方、セルフワーク(心の中で自分に問いかけること)を身につけるなど、着実に成長してきた。射撃競技の強豪国であるドイツからきたコーチからは、目標の立て方や結果からの反省方法、課題の見つけ方など多方面で指導してもらった。こうしてコーチをはじめ、仲間たちとの関わりの中で、これまで課題であった精神面が改善された。今回のファイナルでは始まる前から笑顔もみられ、手元に置いてあるノートに自分で書いた「笑えるイラスト」をみてリラックスを心がけたという。

射撃を始めたきっかけは、中学1年生の時に参加したスポーツレクリエーションイベントで、チームライフル射撃を体験したことであった。単純に「楽しそうだな」と思っただけで、面白く、面白いというに当たった。係りをしていた沖縄県ライフル射撃協会の方から「すごいね。ぜひ本格的に始めてみないか」と誘われたことだった。高校1年生の夏から大会に出場し始め、本格的に始めたのは高校2年生になってから。実質2年で大会優勝や、国体3位という結果を残してきた。

国体を振り返り、「今回3位という結果となっていて、とても嬉しい。大学進学希望なので、今回の結果を励みに大学でも競技を続けて、また国体の舞台へ戻ってきたい」と意気込む。国体のみならず、2020年の東京オリンピック出場に向けて、さらなる活躍を期待したい。

につけるなど、着実に成長してきた。射撃競技の強豪国であるドイツからきたコーチからは、目標の立て方や結果からの反省方法、課題の見つけ方など多方面で指導してもらった。こうしてコーチをはじめ、仲間たちとの関わりの中で、これまで課題であった精神面が改善された。今回のファイナルでは始まる前から笑顔もみられ、手元に置いてあるノートに自分で書いた「笑えるイラスト」をみてリラックスを心がけたという。

射撃を始めたきっかけは、中学1年生の時に参加したスポーツレクリエーションイベントで、チームライフル射撃を体験したことであった。単純に「楽しそうだな」と思っただけで、面白く、面白いというに当たった。係りをしていた沖縄県ライフル射撃協会の方から「すごいね。ぜひ本格的に始めてみないか」と誘われたことだった。高校1年生の夏から大会に出場し始め、本格的に始めたのは高校2年生になってから。実質2年で大会優勝や、国体3位という結果を残してきた。

国体を振り返り、「今回3位という結果となっていて、とても嬉しい。大学進学希望なので、今回の結果を励みに大学でも競技を続けて、また国体の舞台へ戻ってきたい」と意気込む。国体のみならず、2020年の東京オリンピック出場に向けて、さらなる活躍を期待したい。

につけるなど、着実に成長してきた。射撃競技の強豪国であるドイツからきたコーチからは、目標の立て方や結果からの反省方法、課題の見つけ方など多方面で指導してもらった。こうしてコーチをはじめ、仲間たちとの関わりの中で、これまで課題であった精神面が改善された。今回のファイナルでは始まる前から笑顔もみられ、手元に置いてあるノートに自分で書いた「笑えるイラスト」をみてリラックスを心がけたという。

送球は、面白い!
星槎道都大学男子ハンドボール部

男子ハンドボール

野球は9人、ラグビーは15人で競技を行う。では、ハンドボールは何人で行うか? サッカーは90分(前後半45分づつ)で競技を行う。では、ハンドボールの競技時間は? バスケとハンドボールは縦28メートル横15メートルがコート。ハンドボールのコートの大きさは?

ハンドボールのルールは意外と知られていないかもしれないが、実際にその試合を見ると、スリリングでスピーディーな展開に圧倒される。10月上旬、第50回 北海道学生ハンドボール男子秋季リーグ戦が、北海道釧路で行われた。星槎道都大学の男子ハンドボール部は一部リーグに所属し、全日本インカレ予選を兼ねた今大会に出場した。

その初戦。相手は札幌国際大学。黄色いユニフォームの星槎道都大は、ゆっくりとしたリズムのパス回しから、一転してのスピーディーな攻撃で点数を入れ、前半15分を経過した時点で9-5とリードを広げていった。ところが、そのあとシュートミスが続け、流れは国際大に。チャンスを決めきれないと、リズムがすぐに相手に渡ってしまうのもハンドボールの面白さの一つ。この試合の前に行われた小樽商科大学対東海大学の試合では、リズムを崩した小樽商大が、後半終了間際に10点以上の差を追いつかれるシーンを目の当たりにした。

国際大はチャンスでは確実にシュートを決め、アップされあわてたセンターがホームへの送球をそらすミスで1点を返され1点差に詰め寄られた。そして5回表に無死! 2塁のチャンスを迎え、送りバントをサード前に転がしたのを3塁ベースカバリーした野手に悪送球。2点を追加する。その後スクイズも決まり6-2と突き放して前半戦を終了した。6回にもタイムリーで7-2と突き放したが、その裏のY校の攻撃から試合の様相が一気に変わる。6回と7回で星槎投手陣がY校に7四死球を与えてしまい、リズムを崩した守備陣も乱れて一挙に6失点を喫して7-8と逆転。そして最終回、二死を取られてもあきらめずに高橋小次郎がツーベースを放ち、この試合当たっている濱田琉大が同点タイムリーで追いつき延長戦に。しかし、連投の疲れがあった一柳が延長10回二死から一時は3点差まで詰め寄ってくる。ここで、星槎道都大は悪いリズムを変えるためにメンバースチェンジをする。これが功を奏し、前半ラスト1分から立て続けにシュートが決まり、前半を14-8で折り返した。

後半開始5分間は一進一退が続いたが、ここで星槎道都大ゴールキーパーがファインセーブを連発。このキーパーに比べるべく、6人のフィールドプレイヤーが縦40メートル横20メートルのコートを縦横無尽に駆け回り、千変万化のプレーで、国際大を突き放しにかかった。前後半60分の試合は、結局30-19で星槎道都大の勝利。この勢いで、2日目は北海学園大学に36-30、旭川医科大学に32-11

専攻
野球
秋季神奈川大会報告

来年度の春のセンバツ甲子園につながる秋季神奈川大会が開幕した。結果は下表の通りだ。

2回戦は、地区予選で強豪の湘南学院高等学校に競り勝ち、勢いにのる横須賀学院高等学校。初戦の堅さから初回に絶好のチャンスを生じ、逆に相手に長打とスクイズで先取点を奪われる展開になった。前半戦は点の取り合いになってしまい、最終相手のペースでゲームが進んだ。5回終了で5-5の同点。ここで監督からきつい一喝が入り、気合いを入れなおした。これが効いたのか6回には、打線が爆発して一挙7点を入れ、一気に相手手を突き放した。全体的には、20安打13得点を奪った攻撃陣は好調を維持している。しかし、守備陣で

は捕球ミスや送球エラーなどが目立ち再調整が必要である。投手陣もコントロールが安定せず、二死やツーストライクから失点をするケースがあり、無駄な四球も多かった。課題の多いゲームだった。

3回戦は、甲子園に出場経験のある強豪校横浜隼人高等学校。前半戦は横浜隼人ペースで進み、5回まで星槎打線はノーヒットに抑え込まれた。星槎のエース・柳大地も好投していたが、5回裏に痛恨の一発を浴び1点を先取された。しかし、6回表に横浜隼人のサウスポー佐藤投手から4番・一柳が逆転2ランをレフトスタンドに叩き込んだ。その後も連打で佐藤投手をノックアウトし、リリーフ投手から半田翔太郎が追加点となるタイムリーツー

は捕球ミスや送球エラーなどが目立ち再調整が必要である。投手陣もコントロールが安定せず、二死やツーストライクから失点をするケースがあり、無駄な四球も多かった。課題の多いゲームだった。

3回戦は、甲子園に出場経験のある強豪校横浜隼人高等学校。前半戦は横浜隼人ペースで進み、5回まで星槎打線はノーヒットに抑え込まれた。星槎のエース・柳大地も好投していたが、5回裏に痛恨の一発を浴び1点を先取された。しかし、6回表に横浜隼人のサウスポー佐藤投手から4番・一柳が逆転2ランをレフトスタンドに叩き込んだ。その後も連打で佐藤投手をノックアウトし、リリーフ投手から半田翔太郎が追加点となるタイムリーツー

は捕球ミスや送球エラーなどが目立ち再調整が必要である。投手陣もコントロールが安定せず、二死やツーストライクから失点をするケースがあり、無駄な四球も多かった。課題の多いゲームだった。

秋季神奈川大会 結果

- ◆ 9月 8日 2回戦 vs 横須賀学院 13-6 (7回コールド)
- ◆ 9月15日 3回戦 vs 横浜隼人 3-2
- ◆ 9月16日 4回戦 vs 横浜商業 8-9 (延長10回)

勝利に沸く

